

## 教育委員会 3 月臨時会 会議録

- 1 開催日時 令和4年 3月 23日 (水) 午後3時から午後4時40分
- 2 場 所 教育委員会室
- 3 出席委員 教 育 長 丸 山 陽 一  
同職務代理者 近 藤 守  
委 員 倉 石 和 明  
委 員 塚 田 まゆり  
委 員 茅 野 理 恵
- 4 説明のために会議に出席した者  
教 育 次 長 樋 口 圭 一  
教 育 次 長 勝 野 学  
参 事 兼  
学校教育課長 上 石 秀 明  
教育次長副任兼  
総務課長 藤 澤 勝 彦  
保健給食課長 丸 山 英 樹  
家庭・地域学びの課長 小 池 秀 一  
文化財課長 前 島 卓  
総務課長補佐 石 坂 陽 子
- 5 書 記 総 務 課  
庶務担当係長 和 田 美 香

丸山教育長が開会を宣した。

#### <教育長あいさつ>

新型コロナウイルス感染症がなかなか収まらない中で、長野県のまん延防止等の特別措置が今月6日で解除され、市内小中学校においても分散登校をやめ、通常登校に戻したところである。分散登校や分散教室により、学校における集団的な感染の抑制に一定の効果があったものと推察している。小中学校の卒業式については、コロナ禍で迎えるのは3年目となるが、各校の規模や実情に合わせた感染対策をしっかりとしながら挙行了した。小中学校合わせて約6200名の児童生徒がそれぞれ将来の夢と希望を胸に、学び舎を巣立っていった。卒業生の皆さんは、新型コロナウイルス感染症の拡大により、これまで我慢の学校生活を余儀なくされたことと思うが、コロナに負けないという強い思いを持ってこれからも明るく元気で新たな学校生活を過ごしていかれることを心から願っている。現在は春休み中であるが、なかなか収束に向けて明確な兆しが見えない中、来月早々には入学式、そして新学期が始まる。引き続き学校での感染予防対策には万全を期していきたい。

また、毎日ニュースで悲惨な状況が報道されている、ロシア軍によるウクライナ侵攻であるが、両国は市内小中学校の一校一国運動の相手校となっている。ウクライナが長沼小学校、ロシアが裾花中学校である。ロシアによるウクライナ侵攻が続く現状に、不安や疑問を抱く子どもたちがいることから、そうした不安を抱え込まないようにこれから学校現場でどう教えていくのか、小中学生の高学年以上が対象になるかと思われるが、今後道德の授業等で重要な課題になってくると考えている。

#### <協議事項>

協議1号「長野市教育委員会行政情報取扱規則及び長野市教育委員会事務局の組織等に関する規則の一部改正について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

藤澤教育次長副任兼総務課長が説明した。

丸山教育長が諮ったところ、原案のとおり承認された。

協議2号「長野市教育委員会会議規則の一部改正について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

藤澤教育次長副任兼総務課長が説明した。

丸山教育長が諮ったところ、原案のとおり承認された。

協議3号「第三期しなのきプラン」令和4年度版について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

勝野教育次長が説明した。

・アップデートした内容を中心に説明

委員 大々的な研究というより、各校で取り組みやすいようにしてもらえれば良い。コロナ禍でもあり難しいところがあるかもしれない。全てをやるとなると、大変な量になる。

委員 教師の働き方改革は、こんなにたくさんの拡充ばかりで大変でないかと危惧する。また、保護者から、戦争について子どもたちにどう説明していけば良いか分から

ない、という声を多く聞く。学校から保護者に対しても戦争教育や平和教育をや  
ってきていないので、早めに指導があればありがたい。しなのきプランにどう関  
わるか分からないが、コロナ以外のカテゴリーが加わってしまった。

勝野教育次長

働き方改革について、拡充するものがあるなら削除するものもないと、というこ  
とは承知しているが、どれを削除するかというところが難しい。委員の意見も大  
切にして、学校が負担とならないようにしていきたい。戦争については、どう教  
育の中で生かしていけば良いか迷う部分ではあるが、テレビや報道でこれだけ出  
ているので、学年に応じて、まず子どもたちが考える機会を与えて、整理しなが  
ら教育、学校として何を指導するのか慎重にやっていかなければならないところ  
である。考えることは大事なので、考える機会を与えていきたい。

委 員 一番難しいのは、情報教育でどちらが事実かというところをどう見極めていくか。  
戦争そのものを取り上げるのか、情報はどういう性質を持っているのか、という  
ことを例にしながら説明するのか、情報教育の部分として、まず至急やるべきと  
思っている。参考までに、戦争については、第二次世界大戦について中学2年生  
の歴史で学ぶので、それが参考になるのではないか。平和問題については、その  
ものをどう扱うかは難しいが、取あえず扱えるのは核の問題。日本は被爆国とい  
うところからどう考えるかという切り口で少しずつ、中学生になるが学年に応じ  
て考えていけば良いのではないか。情報は早めにやらないと日頃使っているも  
のが全部関わってくるので、こんなに違うとどちらが正しいでなく、そういう情  
報の扱い方があるということは早めに知らせていった方がいい。

委 員 子どもの安心感を守っていくために、今、いわゆる戦争や暴力というものが飛び  
交っている中でどう対応していくか、発達段階に応じた対応について今日資料が  
上がってきたところなのでお話しする。

委 員 先日も、生徒の「戦争があるから何をやっても嫌になる。」という一言を聞いてず  
しんときた。子どもたちも毎日映像を見せられていたらトラウマになってくるの  
ではないか。早くコントロールしてあげられると良い。

丸山教育長

長沼小学校はウクライナと一校一国運動を行っているから、相手国がこうした状  
況になってどう思っているのだろうか。

勝野教育次長

裾花中学校も今までロシアを応援していたので、子どもたちは複雑な思いを抱え  
ている。

委 員 ロシア自体が悪いわけでないが、避けては通れない問題。

丸山教育長

今現在起きていることなので、しなのきプランとは別のものかもしれないが、早  
急に対応していくべき。

委 員 自学自習の資質を培うには良い教材にはなるかもしれない。どうやっていくか難  
しいが、研究委員会でやっていただくのか。

丸山教育長

様々な考えがあるだろうし、子どもたちに議論させれば良いのではないか。遠い  
世界や国で起きているということではなくて、身近な問題と絡めてやっていけば  
いいのではないか。

丸山教育長が諮ったところ、原案のとおり承認された。

協議 4 号「長野市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

上石参事兼学校教育課長が説明した。

- ・定例協議会として、年 2 回あるいは 3 回、情報の共有や各所属団体がいじめ問題にどのように取り組んでいるのか、どのように啓発しているのかという情報交換を行う。

委員 長野市医師会からは 1 名だけであったか。

上石参事兼学校教育課長

いじめ問題の第三者委員会においては 2 名お願いしているが、本件については 1 名。

丸山教育長が諮ったところ、原案のとおり承認された。

協議 5 号「長野市教育支援委員会委員の委嘱等について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

上石参事兼学校教育課長が説明した。

- ・学校関係者については、今後の異動状況により在任期間が修正される。

委員 異動で昇任した人はどうするのか。校長も支援委員となって良いのか。

上石参事兼学校教育課長

昇任については 4 月に修正させていただく。校長については問題ない。

丸山教育長が諮ったところ、原案のとおり承認された。

協議 6 号「戸隠伝統的建造物群保存地区防災計画の決定について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

前島文化財課長が説明した。

委員 建造物が広く点在しており、難しい地域の計画であると思う。早いうちに、防災訓練を行う計画を消防局と一緒に進めていくと良い。

前島文化財課長

地区の中では、修理してトタンを剥がし茅葺にするという防災上では逆方向のことを行っており、住民の意識は高まっているので、訓練は行っていきたい。消防隊の到着が遅いことが予想されるが、消火栓があっても水圧が強く、素人では扱いきれない。扱いやすい小口径のホースを設置していくという計画もしている。設置したところはまず住民が使ってみるなどし、順次訓練を実施してまいりたい。

丸山教育長が諮ったところ、原案のとおり承認された。

<一般行政報告>

報告 1 号「令和 4 年度教員人事異動について」

報告 2 号「令和 4 年度事務局・教育機関職員の人事異動について」

これら 2 つについて関連のある事柄であるため、丸山教育長が合わせて事務局に説明を求めた。

樋口教育次長が説明した。

- ・人事に関する案件であるため、非公開での協議を求めた。

非公開での協議について丸山教育長が諮ったところ、委員一同により承認された。

よって、本件は「その他」終了後、「非公開」で協議することとした。

報告3号「令和4年度の登校支援策（長野市版スクリーニングを活用した支援会議）について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

勝野教育次長が説明した。

- ・令和3年度上半期の不登校児童生徒数の推移について、前年度はコロナにより登校日数が減少し比較に不向きのため、令和元年度と比較している。

委員 令和3年度を取組として、重点校の新規不登校率が減少したということだが、詳しいデータを知りたい。

勝野教育次長

小学校では、令和2年度の新規不登校者数が6名から令和3年度は3名に、別の小学校では5名が2名となった。また、中学校では17名が13名と、ゼロではないが、いずれも減っている。

委員 増減も大事だが、減ったのはなぜかという分析はあるか。SSW（スクールソーシャルワーカー）を派遣したことによるものであるのか。

勝野教育次長

普段の生活状態を調査し、自己肯定感の高低が分かる「しなのきアンケート」を年2回行っており、数値を客観的に見ている。また、いじめの調査を行い、自分がどう見られているかという客観的なデータを中心に、SSWの目でも見られている。学校に来ている子どもでも、心配な子はピックアップされることが、スクリーニング会議の良さだと感じている。

委員 その後の学校の集団の中でのその子に対する理解を誰がどう深めていくか、その時はSSWかSC（スクールカウンセラー）なのか。SSWを多くした理由は何か。

勝野教育次長

支援会議をする中で様々な子が出てくるため、学校職員だけでは対応が難しい場合はSSW、SC、外部の専門家などに、力を発揮してもらっている。

丸山教育長

要するに、予備軍から新規不登校者数を減らしたということだが、継続して不登校となっている子に対してはどんな対応をしているのか。

勝野教育次長

定期的に家族や本人、必要な関係者によって継続して支援会議を実施している。

丸山教育長

登校を目的ということだけでなく、居場所として中間教室やフリースクール等の紹介も1つの手段となってくるか。

勝野教育次長

それらを紹介するために今年度作成した冊子を提示している。

丸山教育長

不登校対応として、ICT（オンライン）で学活や授業を結んでいるお子さんは

どのくらいいるか。

上石参事兼学校教育課長

在籍校でのデータではないが、中間教室に通っている児童を対象としたデータでは、8割がICTを活用している。

委員 休み始めた時から、つないでおくだけでもかなり学校の様子が変わり、休んだことによって学校に行きにくくなるなど、様々な二次的問題の予防になる。1人1台端末ということを生かして、教室とつなげたり、授業をそのまま流したりすることができれば学習保障にもなってくる。先々そういうことができると防げるものが増えていくかもしれない。

しなのきアンケートといじめ調査を活用しスクリーニングを行っているとのことだが、信大でも個別の教育相談を充実させようという目的でアルプスチェックシートを作成した。子どもと保護者との思いを擦り合わせることができるので、活用を希望するところには紹介していきたい。しなのきアンケートとは違った切込みで活用の仕方も違ってくると思うので、並行してあってもよいかもしれない。

委員 県の不登校支援がどう関わっていくか見えなくなっている。予防的措置としてスクリーニングを行い不登校の防止となっているとのことだが、既に不登校となっている子には何をどうやっていくのかが見えにくい。

上石参事兼学校教育課長

2点あり、1つは新規不登校生徒の抑制。もう1つは、今学校で関わっている不登校生徒に対してどんな支援をしているのか、定期的にあらゆる専門家を入れてチームの支援会議を行うことで、今やっていることが適切なのか、違う視点から見てもらっている。緊急的に取り組むべき部分もあるが、その前に気になる子どもたちをまず洗い出し、その中で緊急対応すべき子にはSSWを入れ、校内での支援の方向性を決め実践に移していく。また、その実践が適切であるか定期的に外部の目でも見てもらうという二面を持った支援の在り方でこのスキームはできている。

委員 定期的な支援会議の存在は大事。不登校になった子の状態はなかなか進展しないので、同じ先生が支援し続けると苦しくなってくることもある。この定期の会議が、直接支援している人たちを間接的に支援できる場として機能させていけるかが重要。

上石参事兼学校教育課長

スキームがなかったので、SSWや専門家を入れない学校も多くあった。要請があつて初めて派遣されるので、そうでなく定期的に位置付け、外部の目から、今やっている学校の取組支援策を見てもらうという側面もある。来年度は、SSWを入れておらず不登校生徒が増えている学校においては、重点校として強制的に入れていく取組を考えている。そのためには、SSWの活動時間が今のままだと足りないので、来年度は1.5倍ほどにしていく。

委員 教育振興基本計画の協働という概念からして、良い取組になると思う。今言ったようなものも位置付けて、しっかり記載してあると、学校や保護者に対しても分かりやすい。

委員 今やっていることが適切であるかどうかを専門家の視点で判断してもらうことは必要だが、評価されるという形になるとハードルが上がり、SSWやSCの活用を躊躇してしまう学校があるかもしれない。チームの一員として学校の実践を支えてもらうという立場で入ってもらうということを学校やSSWやSCにも伝えていけると良い。

報告 4 号「令和 4 年度給食費について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

丸山保健給食課長が説明した。

委員 加工賃が値上がっていても給食費が値上がらないという中で、おそらく 1 年間で何かしらの量を減らさざるを得なくなってくるのではないか。また、現在のウクライナ情勢から、今後小麦やバター、その他の値段が上がってくる可能性もあり、少し給食費の値上げも考えておかないと、子どもの栄養を十分に取れなくなってくるかもしれない。その中でどうするか、少しずつ保護者にも伝えていかないと苦しくなっていくかもしれない。

丸山保健給食課長

長野市では毎日約 3 万食の給食を作っており、大量の食材調達により工夫できる。今後牛乳や小麦などが値上げになると副食にしわ寄せが来る可能性もあるが、今年の状況であっても野菜の物価変動があるが、品質を落とさず種類を変えるという工夫で、令和 4 年度は対応できると見込んでいる。世界情勢の動向を踏まえながら、カロリーや量の基準は変えず、おいしい給食を提供していきたい。

報告 5 号「長野市青少年健全育成審議会委員の委嘱について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

小池家庭・地域学びの課長が説明した。

報告 6 号「国登録有形文化財の抹消について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

前島文化財課長が説明した。

- ・令和 4 年 4 月 1 日から、国の表記方法に合わせるため、国登録有形文化財（建造物）の件数表記を変更し、「箇所数（60）」→「棟数（136）」とする。

<その他>

○教育委員会の主催、共催及び後援事業について（藤澤教育次長副任兼総務課長）  
後援事業 19件

次回以降の日程確認（藤澤教育次長副任兼総務課長）

4 月定例会 4 月 6 日（水）午後 3 時から 教育委員会室

5 月定例会 5 月 9 日（月）午後 3 時から 教育委員会室

先の承認により非公開にて説明した。

報告 1 号「令和 4 年度教員人事異動について」

報告 2 号「令和 4 年度事務局・教育機関職員の人事異動について」

丸山教育長が閉会を宣した。

令和 年 月 日

会議録署名委員

教育長

同職務代理者

教育委員

教育委員

教育委員